



その時感じる思いを大切に・・・

午前中の手作業では、カレンダーの色塗りや脳トレの計算問題など、皆さんそれぞれを選んで参加して頂いております。ある日、Aさんにカレンダー作りを提案したところ、「私は不器用だから、色塗りはできません」とAさん。先月はカレンダー作りに参加され、出来上がった時にはとても喜び、画用紙に貼って持ち帰られました。Aさんはカレンダーを作ったことは忘れていたようです。

今回のポピンズだよりにAさんがカレンダーを持って笑顔でいる写真が載っていました。それをAさんのところに持って行って、その写真をお見せしました。

「先月もこうしてカレンダーを作って持ち帰られたのですが、今月も作ってみませんか？」

「あら～私だね～」

「そうです、素敵な笑顔ですね。このカレンダーはAさんが塗ったのですよ」

「そうかい」

「今日も色を塗って仕上げてくださいませんか？」

「私にできるかね？」

「はい、できますよ。何種類かありますので、好きなものを選んでみませんか」

とお見せすると、お花の絵柄を選ばれました。

Aさんは、「葉っぱは緑だね」と塗り始めると、集中してお昼前には塗り終わっていました。Aさんの塗り終わった時の達成感や喜びは、Aさんの笑顔に表れていました。おやつ後に、画用紙を選んでいただき、リボンを付けて完成させました。「もらって帰っていいの?」「はい、もちろんです。カバンに入れると折れてしまうので、車から降りる時にお渡ししますね」と言うと、「頼むね」とAさんは笑顔でした。

ご自宅にお送りした際、ご家族様に「今日はこれを作って完成させました」とカレンダーを渡して報告をすると、「あら～よかったね」「そうかい?これ私が作ったの?」とAさん。「はい、そうですよ」「また飾っておくわね」とご家族様も嬉しそうでした。

認知症の症状の中で記憶に残らないこともあります。ありのままを受け止め、その時、その瞬間に感じる思いを大切に過ごしていきたいと思えます。そのためにも、必要とされるケアとサービスの質の向上に取り組んでまいります。

お食事の介助



Bさんのお食事の介助について、介助をしても口があまり開かないことが多く、どうすれば食べて頂けるかを考えてみました。

まず、スプーンの大きさを、今までも小さめのものを使用していましたが、さらに小さいものへ変更しました。すると、Bさんの口が少しでも開いた時に、タイミングを合わせて介助することができました。また、隣に座ったCさんがBさんに声をかけて関わって下さっていたことが刺激となり、うなずいたり、「うー」と声を出したりしており、声かけに対して口を開けて食べられることも多いと感じました。それでもスプーンを唇にあてて、声をかけても口が開かない時には、スプーンの上の食材を乗せ替えてみたり、みそ汁やお茶で少し唇を湿らせてから再度やってみるとスムーズにいくこともありました。

Bさんに合わせて対応することで変化があり、40分程で完食することができました。Bさんの状態に合わせて、より良い方法を模索し、工夫してまいります。